

# 北の農職家

KITA NO NOUSYOKUKA

2024

1

No.325

迎春

ホクレンの  
DXの取り組み



令和5年度 役員道内視察研修にて

研修日程：令和5年11月7日～9日



# 令和6年度新年挨拶



津別町農業協同組合

代表理事組合長

佐野成昭



新年あけましておめでと〜うございます。  
令和6年の年頭に際し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルスも5類に移行し、社会活動がやっと正常に戻りつつ人流の動きも活発になってきた様に思います。

生活面では、軒並みに食料品、電力、燃油の相次値上げラッシュで、特に子育て世代の家計には影響が出ており、懐が寂しい年になりそうです。政府の景気予想では、緩やかな回復傾向と言いますが、あまり実感がわかない状況だと思います。

一刻も早く無用な争いが終結して平和な国際社会になり、エネルギー、食料、資源等が持続的に、かつ安定的に往來する日が来ることを心より願っております。

昨年の作柄は、近年雪解けが早く春の定植作業も順調に始まりましたが、6月7日に天候の急変により、市街地区を中心に降雹、降雨があり、豆類で一部廃耕を含め玉葱・てん菜・大豆・馬鈴薯に被害があり、二年続きの降雹に気が抜ける思いとなりました。

小麦については、6月の気温や日照率も高く、収量・歩留含め平年作以上の出来に、これまで増収に向けて取り組んできた学習会や青空講習と熱心に学んできた成果が実り、生産者は基より、今まで携わってきた営農課木俣嘱託や荒木係長を

はじめとした普及センターの皆さんのおかげと熱くお礼申し上げます。

その後については、真夏日が続き、てん菜・馬鈴薯・豆類に病害・減収・低糖分となり計画を下回る事となりました。玉ねぎに至っては、日焼けによる歩留の低下もありましたが、価格についてはR3年と同じような価格帯で推移しています。

酪農畜産については、飼料の高止まり、個体販売の低迷、猛暑による生乳減少もあり厳しい環境にあります。この厳しい環境の中、政府は需要拡大支援、飼料の支援、補給金、資金の援助等行っているものの、販売物への価格転嫁が進まず、国内企業による稼ぐ力を早期に発揮される事を期待し、経済の好循環による消費拡大が待たれる所であります。

昨年4月に役員改選があり、理事2名・監事1名の交代があり、職種・年代・職歴共にバランスが取れた新役員体制となりました。社会変化、世界情勢、感染症、気象変動と変化の多い中で、組合員の営農と生活をしっかりと守る事が私たちに課せられた使命であります。生産者との対話を深め、日本の食料基地である使命感を持ち、食料の安定生産と農畜産物の需要拡大に取り組み、命の源である食料を生産し、まさに新しい時代の農

業を新役員と共に築き、次世代後継者に繋いで参ります。

尚、本年は第10次振興計画の策定年に当たり、各策定委員にご足労の中、最終施策のまとめに向けて審議頂いております。第9次の5年間では、予期もしないコロナの関係、ウクライナ紛争と全世界を震撼させる出来事により、この影響をまともに受けエネルギー、穀物、生活物資の値上げ、物流の停滞など予期しない出来事の連続でした。次期振興計画では、重点施策を3つに絞り、1つ目は農業所得の増大と持続可能な生産の確保、2つ目は担い手確保と次世代の多様な価値観に対応した経営、3つ目は食料・農業・環境に関する地域住民理解の醸成を基本として、強い農業と豊かな魅力ある農村

業を新役員と共に築き、次世代後継者に繋いで参ります。

## 謹んで新年のご挨拶を申し上げます

を目指す内容になっており、指針に沿った今後5年間の取組みとして進めて参りますのでよろしくお願ひ申し上げます。最後に参りますが、JAの存在意義は、相互扶助の精神で成り立っています。お互い様と気楽に言える組合員間が理想であります。協同組合の意義や組合員の役割についても、改めて振り返って頂きながら、更なるJAの結集をお願ひ申し上げます。今後も組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が持続出来る環境を整えられますよう、JAも全力で取り組んで行きたいと思っております。本年も組合員、ご家族様が健康で災害も無く豊穡の出来秋を迎える事が出来ますよう心からお祈り申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

代表理事組合長

常務理事

職務代行理事

理事(総務常任委員長)

理事(経済常任委員長)

理事

理事

理事

代表監事

監事

佐野成昭

岡本幸年

安部仁

迫田浩司

鹿中徳三郎

竹原宏太郎

大矢根督

中西友幸

長瀬信一

小野敏明

# 令和6年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会

代表理事会長 樽井 功



新年あけましておめでと〜ございます。組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先は天候に恵まれ地域によって降電被害や竜巻の被害が見られたものの、概ね、平年並みに推移しておりました。しかしながら夏場は猛暑による記録的な高温多湿の影響を大きく受け、各作物の生育自体は、全般的に平年よりも早く進んできました。が、各作物等の収量および品質の低下が顕著となる残念な年でした。

新型コロナウイルス感染症の位置付けは昨年5月より5類に移行し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、各農畜産物の消費は依然として低迷しており、さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大なものとなっております。

さらにこれらの影響を受け、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動き

が活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっております。

現在、日本の食料自給率は38%しかありません。

これは、世界の先進国の中で最低の水準であり、6割以上の食べ物を輸入に頼っているのが日本の現状です。

食料安全保障の強化が国家の喫緊の課題であることから、我が国の食料供給基地である北海道農業が果たしてきた役割そして北海道農業への期待は、今後ますます大きくなるものと考えております。

JAGグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組むことが重要であり、国民の命の源である食を守り続けるにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいく必要があります。行政や全国連とも連携し、しっかりとその対応を図って参ります。

今年、第31回JAG北海道大会が開催されます。

また、第30回JAG北海道大会の実践最終年度であり、決議された将来ビジョン

である、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の成果をしっかりと検証し、次のJAG北海道大会に繋げていく必要があります。

このような状況であるからこそ、協同組合運動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越えることが重要となります。

消費者の皆様に対しては、今まで以上に農業・食に対する理解を求めするため、JAGグループ北海道統一の情報発信のフリーズである「アグリアクション北海道

## 食を仕事にする皆さんにエール



津別町長 佐藤 多一



新年明けましておめでと〜ございます。農業者の皆様におかれましては、日々の営農を通じ地域農業と地域社会の振興発展にご尽力をいただき、改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、一昨年の町長選挙におきまして5年度目の当選を果たさせていただきました。任期2年目を迎えたところです。この間、百年に一度となる「まちなかの再生」を目標し、計画に基づき大型事業を進めてきたところです。この事業は、人口が減少する中であっても、津別町が未来においてしっかりと存続していくための社会インフラの整備を行うことを目的としています。地域社会を存続させるためには、

道」を浸透させ、より効果的な情報発信を行い、JAGグループが提唱する「国産国産」の認知を広げて参りましょう。

結びになります。本年は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年だといわれています。

この謂われにあやかり、本年が豊稔の年となること、皆様のご健勝をご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

ハード面だけではなく様々な課題の見直しと改善を行い、町民の皆様が暮らしやすい町にしていかなければなりません。農業者の皆様におかれましては、ご理解とご協力をお願いするものです。

さて、昨今の世の中を振り返りますと、令和2年1月に国内初の新型コロナウイルス感染症が検知され、その後、ウイルスとの戦いが長く続きました。昨年5月に感染症の分類が引き下げられたことから、社会活動に活気が出はじめ、東京や札幌に出かけると外国人を含む人の動きが煩わしくさえ感じるほどになりました。また一方、この一年は「戦」の絶えない年でもありました。一昨年2月にロシ

アがウクライナに侵攻し、その戦争は間もなく2年を迎えようとしています。昨年10月にはパレスチナ・イスラエル戦争が勃発し、この他にも世界のあちこちで絶え間なく紛争が続いています。戦争の被害者は多くの非戦闘員にも及び、額から血を流す子どもの映像は見るに堪えません。生まれた国の幸・不幸を考えさせられながら、このような状態が一刻も早く収束することを願うばかりです。

こうした中、農業という言葉の前に「食糧安保にとつての」という言葉がつけられるようになりました。言うまでもなくロシアのウクライナ侵攻が契機になつていて、有事を想定し平時から食料を確保するための農産物の生産拡大を目指すというものです。そのため、平成11年に施行された「食糧・農業・農村基本法」の改正案が今通常国会に提出される動きになっています。食料の6割を輸入に頼る日本にとって、世界が自国ファースト傾向になる中、食料の確保は大変難しい状況になると見込まれています。加えて昨年のような異常気象は、今後通常の気象になるとの予測もされています。結論として、私たちにできることは地域農業を守ることであり、そのことが「食糧安保の基本」になると考えます。

そうした状況下、営農にとつて厄介な項目の一つに鹿による被害があります。令和5年度の捕獲頭数は恐らく千頭を超ええると思われまます。これに加え、熊の被害も顕著になってきました。かつて熊は、山の神が住む「奥山」にドンングリなどを食べながら生息していました。この奥山から人が住む「里」までの間にはいくつかの緩衝地帯がありました。「奥山」の次には薪や山菜を採る「里山」、次に採草放牧地と墓地がある「野辺」、その次に田畑が広がる「野良」があり、そして「里」がありました。この三つの緩衝地

帯を飛び越えて、人が住む「里」にエサを求めて鹿のみならず熊もたびたび出没するようになりました。平成30年以降、津別町での熊の捕獲頭数が最も多かったのは令和3年の20頭で、この年には人身事故も発生しています。「野生動物との共存」という言葉をよく目や耳にしますが、そう簡単なことではないことは皆さんもよくご承知のことと思います。今後とも柵の維持はもとより、猟友会と協力し対応して参りますが、危険を避け十分に注意を払いながら農作業を行っていただきたいと思ひます。

平成27年度から始まった国営農地再編整備事業は今年度でほぼ工事が終了します。諸般の事情によりこの事業のスタートから参加できなかった地区については、現在道営事業で対応しているところですが、スマート農業も年々浸透し、農家経営の変化は目を見張るばかりです。今後も進化を続ける「食」の生産を担う皆様にエールを送りたいと思ひます。

結びに、農業者の皆様にとつて本年が輝かしい年となることを願ひますとともに、JAつべつ組員と役員の方々の皆様はもとより、すべての農業関係者の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。



## 年頭のご挨拶



網走農業改良普及センター美幌支所

支所長 佐々木 康 洋

新年、あけましておめでとうございませす。

令和6年の新春を、ご家族の皆さまや地域の皆さまとともに迎えのこととお慶び申しあげます。

また、当普及センターの活動に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、心からお礼申しあげます。

昨年は、未だ止まない紛争に伴う国際情勢の変化が、農業経営を取り巻く環境にも大きな影響を及ぼしています。しかし、新型コロナウイルス感染症対策が5類に移行し、人流の活発化に伴い社会活動（消費や会合など）が多くなってきたことは、明るい兆しと捉えることができませす。

さて、昨年の気象経過を振り返りますと、融雪期は平年よりかなり早く（+14日）、4月の耕起始めから5月のは種や移植時期にかけて平年より高温少雨で推移し、春作業は順調に行われ、秋まき小麦の生育も平年より早まりました。

6月以降は、一言でいうと「暑い年」でした。特に7～9月は最高気温が35℃を超える日が複数日あるなど、「今日は暑い！」という気が失せるほどの酷暑でした。その後も10月まで平年より高く推移し、農耕期間の気温は平年より高い傾向でした。

降水量は、平年と比較してやや多い傾向でした。記憶に残るのは6月7日の降電と集中豪雨です。「秋まき小麦」「ばれいしょ」「てんさい」「たまねぎ」「大豆」で茎葉折損・倒伏・ほ場冠水などの被害に見舞われました。

日照時間は、平年と同程度でした。ただし、7月中旬と8月上旬が平年を下回り、作物の生育に影響を与えました。

各作物における作柄は、平年を上回ったのは「秋まき小麦」「ばれいしょ」「大豆」、平年を下回ったのは「春まき小麦」「てんさい」「たまねぎ」「小豆」「菜豆」でした。特に、昨年の特徴である「高温」の影響を受けたのは、病害が多発して根中糖分も低下した「てんさい」、小玉化と強日射による日焼け球が多発した「たまねぎ」でした。

近年は、突発的豪雨や記録的大雨など、地球温暖化に伴う異常気象といわれる現象が毎年発生しています。この気象経過や作柄を踏まえ、今後は気象変動に左右されない生産基盤の維持や生産技術の組み立てがより重要になると考えています。この異常気象の頻発や国際情勢の変化に対応するため、生産現場において求められるのは、経験則に基づく判断力とスピード感とを考えています。その経験則は、スマート農業技術の実装化により経験不



# 新年のご挨拶

足をカバーできるほどになってきました。しかし、さらなる地域農業の発展のためには、未だ数多く存在する「暗黙知」を「形式知」に変化させ、言語化していく必要があると考えています。

普及センターは、令和3年度から恩根地区を重点対象地区として選定し、①畑作物の安定生産、②ICTの活用推進、の2本を柱とした活動を展開しています。近年では、輪作体系確立に向けた新規導入作物候補として、根域拡大と土壌物理性改善効果が期待される「なたね」に着目し、現地実証に取り組んでいます。この重点活動で得られた成果は、地域全体へ普及を図り、他地区への波及も見据えています。また、畜産関係では有機酪農や「つべつ和牛」への支援、さらには、町内の若手および新規就農者、就農研修生らを対象にした「ふるさと塾」の対応もさせていただいております。「ふるさと塾」は、対象者の意欲と熱意が高いことはもちろん、学びを応援する地域の指導的立場の農業者、親世代のバックアップ体制が築かれていることが大きな強みです。

今年も、地域や「人」の中にあるヒント（答え）を基に、技術の習得や交換、提案技術の実証と検証の反復により技術を確立し、地域の「伸びしろ」を伸ばすべく活動していきます。当支所職員が皆さまのもとにお邪魔する機会がありましたら、貴重なお話を聞かせただけだと幸いです。

結びになりますが、本年も輝かしい年となるとともに、皆さまの益々のご多幸とご発展をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



網走川流域農業・漁業連携推進協議会  
（網走漁業協同組合代表理事組合長）

## 会長 新谷 哲也

津別町農業協同組合の組合員の皆様、役職員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

平素より、網走川流域農業・漁業連携推進協議会（だいちとうみの会）の運営に関しましてご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

津別町農業協同組合と網走漁業協同組合、西網走漁業協同組合は平成十九年以来、産業と流域環境について、継続して話し合いを行い、農業と漁業が連携して流域の環境を保全していこうと、平成22年11月25日共同宣言を致しました。農業と漁業は、網走川流域の中心的産業であり、流域の環境保全に向けた取り組みを進め、そのことにより産業の持続性を強固にし、もっと「美味しい」「安全・安心」な食糧生産を目指し、網走川流域の繋がりを意識して、お互いの産業を尊重・理解し、相互に多面的支援を行い、豊かな自然環境と共存しながら持続的に発展することを目的としたものです。

この共同宣言の内容を実現するために、網走川流域農業・漁業連携推進協議会（だいちとうみの会）を、平成23年5月20日に設立いたしました。協議会事業として令和五年度は、昨年に続き開催しました大地と海をつなぐ植樹を、関係者総勢168名の参加を頂き400本の苗木を津別町内網走川河川敷きに植樹致しました。又、植樹終了後4年ぶりとなる交

流会を実施することが出来ました。出前授業も本格的に実施することができ、コロナ以前の活動に戻りつつあります。

網走川流域が育む独自の文化や風土、そして豊かな海と大地の恵みを次世代に引きつぐことのできる地域協働による人・産業・自然が共生する流域社会を目指すために、流域住民をはじめとした、網走川流域に関わる各種団体、企業、行政機関、大学、研究機関が交流・連携・情報交換ができる機会をつくり、人的ネットワークを築き、網走川流域の連携の輪を更に広げるために「だいちとうみの会」とは別組織となります。「網走川流域の会」を平成27年に設立し、令和5年度の通常総会を、4月15日午後2時30分から網走セントラルホテルにて開催し、同日弁護士法人イノベントティア弁護士町野静様をお招きして「国内外における油及び有害物質による汚染事案の紹介と法的解決の方法」と題してシンポジウムを開催したところであります。

又、令和4年11月に兵庫県で開催されました、第41回全国豊かな海づくり大会において、環境大臣賞を受賞したことを記念して、祝賀会を開催致しました。網走川流域で有機農業や減農薬など河川環境負荷低減につながる取組みを実践している個人や団体組織に対して、網走漁業協同組合と西網走漁業協同組合から感謝と敬意を表す目的として、「漁業

者からの応援証」を本年度は、日本体育大学附属高等支援学校、網走川西地区環境保全委員会へ贈呈を致しました。漁業者からの応援証については、これまで23団体に贈呈をしておりますが、平成29年12月7日に設立された「網走漁協・西網走漁協からの応援証受託者連携協議会」（応援証受託者の会・山田照夫会長）の事業として、8月17日に令和4年度受託された2団体の、活動状況確認及び研修会を実施し、会員相互の連携・交流・情報交換が出来る機会をつくる活動が行われており、この応援証が少しでも農畜産物の消費拡大、網走川流域の環境保全のお役に立てればと思っております。

今後の国内経済見通しについては、堅調なインバウンド需要による景気の下支えがある中、各種政策により雇用・所得環境が改善傾向にあるものの、消費者物価の上昇傾向に伴い実質所得は目減りしており、鈍い動きから抜け出せないと判断されています。

又、世界的な金融引き締めや中国経済の先行き懸念など海外景気の影響が、日本の景気を下押しするリスクとなっており、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の動向に十分注意する必要があります。

しかしながら私達は、網走川流域の豊かな自然を大切に、安全・安心な農畜産物、水産物を消費者の皆様へ届けることが我々生産者の使命だと思っております。

農業者、漁業者が連携するということ全国でも珍しいこの取り組みを、たくさんの方に伝え理解をいただけるよう、これからもより一層皆様と一緒に頑張りたいと思っております。

結びになりますが、新しい年が皆様にとりまして良い年でありますようご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。





その他、第30回J A北海道大会の決議事項の再確認や実践事例発表ではJ Aめむろの村瀬営業部長より次世代農業経営との「つながり」と称し活動報告がされ内容の濃いフォーラムでありました。

11月8日(水)  
■ホクレン農業協同組合 本所

ホクレンが精力的に取進めている組織内部改革に向けたDXを中心に研修と情報交換を行いました。最初、当JA役員視察研修のためにご出席頂きました今成代表理事事務より挨拶を頂きました。今成代表理事事務は令和元年までホクレン北見支所長として在任しておりJAつべつともゆかりのある方です。ホクレンがDXに対する推進強化を始めたきっかけは、ホクレン内部によるシステムトラブルが発端であり、2020年1月の経営企画会議において2030年までにシステムの再構築を行う事が決定されたことから3年前より各種のプロジェクトを立ち上げ現在に至っています。

又、ちょうど新型コロナ化の状況も相まって手元のハード面から構築を開始してまいりました。今回はこの3カ年のDXの歩みと現状をそれぞれの部署より説明頂きました。

① DX推進プロジェクトについて  
(経営企画部 四野見次長)

ホクレンが直面している課題では働き手の減少や現行システムの運用を含め専門機関に診断してもらった結果、最下層のレベルにあることが判明し、最下層DX推進プロジェクトを設置した経過となっていました。目的として、デジタルを活用したオフィス業務の効率化と持続可能な事業構築を掲げており、選ばれるホクレンを目指し、現行業務の抜本的な見直しとそれに伴う時間・人材・費用の再配分を実践して行く事を基本としていきました。そのために「組織のデジタル化」「農業DX」「基幹システムの再構築」の3つの柱を軸にシステムリニューアルを決めています。今回は「組織のデジタル化」と「農業DX」「JA事務効率化の取組」の3点を中心に説明を受けました。



・組織のデジタル化として①埋もれたツールの見直し②ペーパーレスの見直し③RPAの活用等の積極的な取組を精力的に進めてきています。ペーパーレスの実績として、新型コロナウイルス前と比べると2/3は減らす取組が出来ており、RPA稼働実績ではロボット作業で、22,000hを自動化させる事ができ、職員数に当てはめると13名程度の作業時間の短縮が図れ、コスト削減にも繋がる取組となっています。又、ペーパーレス化に伴い、試験的にキヤビネットやコピー機を撤去したことで、打ち合わせや相談場所を確保し無駄なスペースを無くす事が出来ていました。社内案内方法(メールやペーパーレスでの閲覧)については、マイクソフト365を活用したポータルサイトで全職員が共有出来る情報サイトの設置やTeamsによる職員間のチャット機能の活用など無駄な時間の改善を図っていました。

② 管理部門業務のデジタル化  
(企画課 大沢主任技師)

時代の流れとともに情報の共有や報告・連絡方法が大きく変わり、同時に情報の保管方法も変化してきていることから、ホクレンでは業務効率化を図るためにクラウド化の有効利用を進めており、そのクラウドツールとしてマイクソフト365を2018年に導入しています。しかしながら、ポータルサイトの活用も一般的なExcel・Word・Outlookの利用のみとなっていたことや、3年前でのホクレンではノート型PCでは無く、職場内ネットワークによるインフラ整備がされていない状況から、コロナ禍によるリモートワーク対応は追いついていない状況でありました。このような現状から、社内のインフラ整備を行い令和4年より各種アプリの活用を積極的に進めています。ホクレンが考えるアプリ化の目的は「ペーパー管理からの脱却」「データ管理の可視化」「クラウド環境による情報の共有化」の3つを中心に業務効率化を目指しデジタル化を推進しており、社内の業務効率化を図る事で今まで以上に外部の現場に目を向けより良いサービスを提供する事を



③ 目的としていました。  
(営農支援センター 清水次長)

ホクレンではスマート農業の推進にあり農業現場のニーズも高まっていることから、農業生産の効率化を図る地図情報システム(GIS)の普及に力を入れています。令和4年より実証を開始し、当JAも本年より試験的に参加し小麦収穫作業時に活用しております。現時点で全道7JAが実証試験に参加しており、システムは日立のGeoMation、地理情報システムをベースに活用し、独自機能を含めたホクレンGISとして開発しています。デジタル地図として圃場の位置と形状、生産者名、作物、品種など年度毎に更新していく内容となっています。導入概念として、コスト低減の機能管理として①圃場管理機能②高精度圃場測量③小麦収穫集荷支援④作物収穫集荷支援⑤圃場作業支援の5つの機能

能を中心に本稼働に向けて実証していま

④ J A事務効率化の取り組み

現在ホクレンでは、J Aの持続可能な経営基盤強化に向けた事務効率化の取組として「購買品仕入れ値入自動化」と「購買品Web受発注システム」の2つのシステムを優先的に取組んでいます。仕入れ値入自動化では、J A担当者が負担と感じている仕入業務の「手作業」の軽減と入力ミスを抑制し、「データ連携」による承認行為の軽減を図れる自動化システムとなっています。このシステムを活用することで、業務時間を2分30分程度効率化を図れる結果となっています。普及状況では肥料、農薬、単味・配合飼料の4品目となっており80 J Aが利用しているが、事務ミス軽減が図れることから利用 J Aからは高い評価を頂いています。Web受発注システムでは、J A及びホクレン側が負担を感じている「受発注」業務を軽減し、従来の電話やFAXによる受発注をWeb上で行うことで、事務効率化・ミス軽減・情報共有の円滑化を目的としています。このシステムは全農が開発しているシステムを北海道向けに導入する予定となっており、取組に向けて試験を重ね令和6年度内のリリースに向けて取組んでいます。

11月8日(水) 株式会社 NIGRITS 栗山工場 対応者・尾崎技術顧問

株式会社 NIGRITS は江別製粉株式会社の子会社であり、平成20年に栗山町農協(現 J A 栗山南)時代に子実とうもろこしによる「土づくり」の取り組みを開始したことから始まっています。当初、収穫子実は飼料用作物として販売していましたが、単価が安いこともあり何か付加価値向上と地域農業の振興を高めるために、平成25年に道総研と J A 栗山南が共同研究開発を開始しました。平成28年に共同研究の成果を受けて J A 栗山南が作った小

規模な実証工場を設置し製造と販売を行ってきた結果、お菓子やお酒など付加価値をより高めることができた。平成29年には北海道の推進転換も成功し、平成29年には「北海道新技術・新製品開発賞」の優秀賞を受賞しました。平成30年には江別製粉(株)が地域特産の穀物として注目し、子実とうもろこしの生産振興が麦類の収量と品質に重大な影響を及ぼし、地域農業の安定的継続に貢献出来、且つ、その事が将来的に道産小麦の安定的な供給体制の構築に寄与出来ればと我孫子社長への思いから、J A 栗山南より実証事業を引き継ぎ新たな業態へのチャレンジを進め令和4年4月より栗山工場が操業し現在に至っております。

この工場では純国産のコーングリッツを製造しており、原料は地元産の「ピビアン」という品種であります。コーングリッツとは子実とうもろこしの粒を「胚乳」と「胚芽」に分けて「胚芽」だけを粉砕して篩いに分けたとうもろこしの粉のことであります。日本での生産はごくわずかで、他国での生産で世界の食物エネルギーの50%を担っているほど重要な作物となっており、日本においては全量が輸入でありそのうち65%は飼料用で残り35%が食料用に振り分けられています。

原料の「ピビアン」が地域の特産品種に選ばれた理由として転作畑の土づくりの副産物に適合していることが大きな理由であります。当時は、連作、土壌の堅密化、透水性の悪化など農家が放置され条件が悪かったことから、土づくりの一環として、緑肥用では無く飼料用とうもろこしを撒くことで土づくりと輪作体系確立の同時進行を行い、更には完熟した子実を収穫し濃厚飼料用として販売した分を生産費に充当するなど全てにおいてプラスに転じる検証結果になったからであります。

製造工程は日本に一台しかないインペラ式丸粒破砕機でコーンに衝撃を与え胚乳と胚芽に分離させ皮を除去し、研磨機で綺麗にした後に比重選別機で篩にかけて胚乳と胚芽に分けて粉砕機に送り製品となっており、年間1,000トンの原料が製造出来れば採算ベースが保てることになりました。子実コーン



から出来たお菓子屋やお酒の製品は生産量から限定されていますが、セイコマートの「とうきびソフト」や J A 栗山南の「本格焼酎」とうきび100」など道内の一部店舗で販売されています。これから取扱を増やし販路拡大も検討しているとのことでありました。今後の子実とうもろこしの期待として、水田転作畑の基幹作物として認知されること、計画的な作付け拡大や子実とうもろこしを畑作物の直接支払い交付金の対象品目にする事、畑作のための基盤整備などが話されていきました。又、緊急な課題として「ピビアン」の上市が中止される懸念より現在代替品種の選定に向けて検討しているとのことでした。

■ 統括

今回、新役員体制となり初めての道内研修でしたが、当 J A が直面している課題に類似している部分もあり、今後の課題解決等向け参考になる内容でありました。北海道フォーラムでは日本の「食」を

取り巻く5つのリスクの課題に対する食安保改正に向けた必要性と実効性を推進することが急務であると感じましたし、何よりも適正な価格形成の実現に向けた国民理解を粘り強く続けたいと日本農業が衰退する危機意識を持つことが重要だと認識しました。又、対話に関しても地区懇談会や全戸訪問を始め、色々な場面で対話活動を行っていませんが、次世代農業者との対話となるが、不足していると感じますので、今回の講演を参考して行きたいと感じました。

ホクレン本所での DX の取組に関しては、まずもって驚いたのはホクレンの社内システムが見直しを掛けないといかないほど古かったと説明を受けたことでもあります。J A サイドからみたホクレンシステムの運用は最先端とはいかずともある程度の先端システムを構築していたと思っていたからであります。DX 推進の姿にも、内外部に目を向けて取組まなければならぬものであり、現在、ホクレンが内部に向けて取進めている内容は、当 J A が課題としている内容と同じであり、とても共感を持って聞けた研修でありました。来年度から策定する第10次中期経営計画の事業推進に向けて参考として行きたいと感じました。

株式会社 NIGRITS 栗山工場では、津別産小麦製粉でお世話になっている江別製粉(株)の子会社であり視察させて頂きました。令和4年4月操業開始だけにまだ新しくとても綺麗な工場でありました。これから期待される子実コーンの工場であるため、まだ規模は小さいものの将来展望を期待できる会社でありました。何よりも小麦の輪作体系における問題からの課題解決に向けた地域貢献など大変な苦勞があつた今であり、暗い農業情勢の中での取組が明るい希望だと感じました。この取組が当町でも出来たと感じると役員も興味を持って意見交換をさせていただきます。1泊2日と短い期間での視察研修でありましたが、各役員が視察を通じて今後の農協運営に対する取組姿勢を改めて感じ取る事が出来た研修だったと思います。



# JA情報館



## 有機酪農研究会 海外視察研修実施

有機酪農研究会（石川賢一会長）は、11月12日～19日（8日間）の研修日程でニュージーランドへ、津別町における国産飼料の給与率100%を目指すための草地管理や飼養管理の技術的ヒントを得るために視察研修を行いました。

今回のニュージーランド視察研修では、生産者（3戸）、指導機関（ファームソース）、製造工場、小売りとまさに上流から下流までを視察し、かかわる人々と意見交換する事が出来ました。その中で特に強く印象に残ったのは以下の3点でした。



### ①オーガニック放牧地における多様な草種

ニュージーランドのオーガニック牧場では、15～20種類程度混合種子を播種し、草地の植生の多様性を高めることで、土地からの栄養吸収効率を高める取組みが進められていました。

### ②ニュージーランド国内におけるサステナビリティについての意識の高さ

研修で話を聞いたほぼすべての関係者からサステナビリティについての言及がありました。特に酪農現場では水資源の保全について強く意識しているように感じました。

### ③フォンテラと生産者間の連携とプライド

牧場オーナーとファームソースメンバーとの強い信頼関係でした。フォンテラ自体が組合であり組合員からの生乳の購入から製品の製造、販売まで一貫して行っていることから、連帯感がある事はある種当然である。しかしながら、その関係性以上の信頼関係を生み出しているものは、ファームソースメンバーの専門知識に裏付けされた自信と、国の基幹産業を支えているというプライドであると感じました。JAの担当者として同様の業務に携わっている自信を顧み、あるべき姿を改めて考える良い機会となりました。

<参加者 6名>

- ・津別町有機酪農研究会：石川会長 山田副会長
- ・(株)明治 調達本部：吉武原料購買部長（15日合流） 松尾酪農部課長補佐
- ・明治飼糧(株)：森田北見支店長 ・JA：畜産課 中川課長



## 令和5年度北海道枝肉共励会 黒毛和牛の部 迫田隆さん、迫田裕治さん、(有)金田牧場さん優良賞受賞!!

11月25日令和5年度北海道枝肉共励会が開催され、黒毛和牛の部に津別町から8頭出品されました（出品頭数140頭）。

昨年までは新型コロナウイルス対策として、開催日に会場への入場が制限されておりましたが、今年度は4年ぶりの通常開催となりました。その中で、迫田隆さん、迫田裕治さん、有限会社金田牧場さんが出品した肥育牛が優良賞を獲得致しました。

- ◇迫田 隆さん 去勢 A5、ロース94、BMS12、枝肉単価2,770円
- ◇迫田 裕治さん 去勢 A5、ロース78、BMS12、枝肉単価2,710円
- ◇(有)金田牧場さん 雌 A5、ロース87、BMS12、枝肉単価2,790円



▲左から(有)金田牧場 金田和久氏、迫田隆氏、迫田康平氏



# JA情報館



## 系統連合会との意見交換会を開催

11月24日（金）JA大会議室に於いて、系統連合会との意見交換会を開催致しました。この取組は、系統連合会との定期的な情報交換を通して、現状の農業・そして農協の課題を洗い出し、今後の組織運営に役立てていくことを目的として毎年開催しております。各系統連合会からは、実践3年目となる第30回JA北海道大会に掲げた取組の進捗状況を報告頂き、更にはJAグループ北海道の取組の一環とした、将来に向けた中長期計画の説明を頂きました。

JAからは、令和6年度に見込まれている食料・農業・農村基本法改正に向け、系統連合会としての強い関わりを引続き求めて頂くように要望致しました。

～出席者は以下の通り～

### 【系統連合会】

- ・JA北海道中央会北見支所 松原支所長
- ・JA北海道信連北見支所 高橋支所長
- ・ホクレン北見支所 古川支所長
- ・全共連北海道本部北見支所 山口支所長

### 【JA】

佐野組合長・岡本常務・安部職務代行・迫田理事・鹿中理事・大矢根理事・長瀬代表監事・小野監事・中西参事・各部課長の16名



## 女性部 4年振り！道外研修実施

11月29日から12月2日まで3泊4日の日程で、金沢方面にJA女性部（迫田彩由美部長）部員6名参加のもと、4年振りに道外研修に行ってきました。

金沢・加賀百万石物語というツアーに便乗して、永平寺、世界遺産の白川郷を観て、ライトアップされた金沢駅の鼓門、加賀料理を頂きお腹も満たされました。忍者寺、兼六園を周り、山中温泉でゆっくり温泉に入り、九谷焼の絵付けをして帰ってきました。雨の多い金沢でしたが、晴れ間も出て、沢山歩き、美味しい物をたくさん食べて、部員同士の交流がなお一層深まり楽しい研修でした。



## 女性部とフレッシュ・ミズ合同で歌謡ビクス!!

12月7日町民会館大会議室にて女性部（迫田彩由美部長）部員9名とフレッシュ・ミズ（金一和美会長）会員2名の合同にて合計11名参加のもと、前回（平成28年11月）開催以来7年ぶりに歌謡ビクスを開催しました。講師に石川朋美先生を迎えて、昭和から令和までの歌謡曲を流し、曲に合わせて十分に酸素を取り入れながら運動を行い、全身の持久性を高めるトレーニングであるエアロビクスを行いました。

始めに椅子に座って準備運動を行った後、途中何度も休憩を取り、水分補給をしながら全部で7曲エクササイズを行いました。なかなかの運動量でしたが、石川先生の「フー」という掛け声（奇声？）が笑いを誘いとても楽しい運動となりました。最後にまた椅子に座って整理体操を行い終了致しました。

石川先生より「運動しよう！と思ってもらった事が本当に嬉しい。運動は誰でもできるけど、でもやらなくても生きていけるものなんですよね。コロナで集団で運動できない時期があって、運動がその時削られ、すごく弱さを感じました。自分が情熱を持ってやってることが省かれ残念でしたが、豊かに自分の人生を楽しもうと思った時、健康がどれほど大事か。元気な心で元気な体が無いと何もできないわけで、コロナの時期を経て、形が変わっても伝えて行かなくちゃなって思った次第です」とお話を頂きました。これからも楽しい行事を計画して人生を楽しみたいですね。





# JA情報館



## ふるさと塾開催

12月1日JA会議室にて入塾者8名と組合員6名の合計14名出席のもと、講師にJAカレッジ鳥井講師を迎えて、組合員（農業協同組合論）研修を行いました。

研修内容として、協同組合の成り立ちから現代の協同組合の在り方まで説明を受け、協同理念を学び協同組合の結集する意義を含め再確認しました。



▲鳥井講師



## 地区懇談会を開催

12月4日～5日の2日間の日程で、JA会議室にて理事と職員（管理職）が出席し、地区懇談会を開催しました。

JA主要事業の状況、パーク・堆肥価格改定、麦乾施設大改修補助事業関係のほか、事業分量配当の実施については、最終決算状況を見極めた上で判断をしたいと報告しました。提案事項については、令和6年度施設投資計画、鹿防護柵設置事業、令和7年度通信不感地帯施設整備事業、第10次農業振興計画・中期経営計画等について出席者に意見を求めました。2日間の組合員出席状況は合計50名でした。



## 青年部 冬季懇談会及びスポーツ交流会を開催

12月12日JA会議室にて青年部（池田健太郎部長）部員15名と若手職員5名の合計20名出席のもと冬季懇談会を開催しました。1グループ4人構成で5グループに分かれ「営農（職場）において困っていること」をテーマにディスカッションし発表を行いました。その後、北見市でスポーツ交流会としてボーリングを行い大いに親睦を深めました。



## 職員全体会議にて職場研修（OJT）を開催

12月14日業務終了後、JA会議室にて職員44名出席のもと職員全体会議を開催しました。

中西参事より地区懇談会の概要について説明を行った後、職場研修（OJT）として「安全運転マナー研修」を実施しました。吹雪による視界不良時（ホワイトアウト）の運転に注意するよう約20分程度の動画を視聴しました。座席の高い大型トラックと座席の低い普通車では、運転席から見える前方の視界が違うことから、車間距離の取り方、ブレーキを踏むタイミングの相違で追突事故が発生する等、どうして事故が発生しやすいのかを学習しました。



# 年金友の会情報

## 第5回 ゲートボール大会

開催日：令和5年12月7日(木)  
開催場所：豊永 屋内ゲートボール場

- 優勝：佐藤(朝)チーム  
【佐藤 朝代・柏木 茂・細川 恵市・館野ヨシ子・竹内 武二】  
準優勝：佐野チーム  
【佐野 信子・丸尾 諭・土江 幸子・藤原 熊男・笠井キヨ子・西前英雄】  
3位：井上チーム  
【井上 隆幸・堂藤 優・鍛冶 博光・奥村 照子・今井 保】  
4位：鹿中チーム  
【鹿中 順一・佐藤 正明・手賀 武一・幅口 悦子・野本 弘子】  
5位：小野チーム  
【小野 勇・山田 照夫・長尾 隆行・篠原 恒子・山下 昌子】



## 第6回 囲碁大会

開催日：令和5年12月13日(水)  
開催場所：JAつべつ 和室

- 優勝：下川 敏章 (五段格) 3勝0分  
準優勝：三島 宏章 (五段格) 2勝1負  
3位：今井 保 (三段) 2勝1負



▲左から年間成績 優勝：下川敏章さん、準優勝：三島宏章さん、3位：今井 保さん



▲JAつべつ年金友の会囲碁会員のみなさんです。

《年間成績》  
優勝：下川 敏章  
準優勝：三島 宏章  
3位：今井 保

初心者の方も大歓迎です  
年金友の会のみなさん!  
囲碁を始めてみませんか?

## 第十二回理事会報告

開催日 令和5年12月26日

### 報告事項

- ① 令和5年度四半期監査(10月末)結果について
- ② 令和5年11月末財務状況並びに決算予測について
- ③ 令和5年度経営所得安定対策に係る仮渡金の支払実績について
- ④ 農業共済金の支払見込について
- ⑤ 農業振興基金の運用状況について
- ⑥ 融資実行状況の報告について
- ⑦ 令和5年度クミカン清算状況について
- ⑧ 各課事務ミス改善報告書について
- ⑨ 各作物の状況及び生産者団体の活動状況について
- ⑩ 各課報告事項について

### 付議事項

- 議案第1号 出資金の持分譲渡について
- 議案第2号 対策組合員に対する貸出について
- 議案第3号 子会社に対する貸出について  
(利益相反取引)
- 議案第4号 子会社との契約締結について
- 議案第5号 役員報酬等審議会委員の委嘱について

### 協議事項

- ① 地区懇談会の意見集約と対応について
- ② 令和6年度基本方針並びに部門別重点方針について
- ③ 令和6年1～4月主要行事日程について



JAつべつ青年部活動をSNSページにて随時更新中です!  
是非ご覧下さい! Facebook、Instagram

Facebook QR Instagram QR



「国消国産」  
レシピ  
コンテスト

白米がモリモリ進む!  
かんたん丼部門

優良賞



美腸を  
目指した

# 鶏肉と牛蒡の ミルクみそマッチ丼

## 材料（2人分）

- もち麦入りご飯…適量
- ごぼう…60g
- 鶏もも肉…120g
- ゴマ油…大さじ1
- 白いりゴマ…小さじ1
- ★赤味噌…大さじ1
- ★きび砂糖…大さじ1
- ★食べるラー油…大さじ1
- ★牛乳…200ml

## 作り方①

ごぼうはさがき、鶏もも肉は一口サイズに切る。

## 作り方②

フライパンにゴマ油を熱し、①を炒める。

## 作り方③

火が通ったら、★を加え

て弱火で水分がなくなるまで煮る。

## 作り方④

炊き立てのもち麦入りご飯の上に②をのせたら、白いりゴマを振って完成。

青髪のテツ ×

JAグループ

「国消国産」レシピコンテスト



インフルエンサー  
青髪のテツ

### ○概要

- JAグループ主催で、青髪のテツ氏(※)とタグを組み実施。
- 「野菜たっぷり!スピードおかず部門」、「白米がモリモリ進む!かんたん丼部門」、「ミルク系スイーツ部門」の3部門で募集。
- 2023年5月18日~7月18日の間で、合計287レシピが応募。

※スーパーマーケット青果部で働いた経験を生かし、野菜の選び方などで人気を博すインフルエンサーで、Xフォロワー約66万人(8月31日時点)。

### ○「国消国産」とは?

「私たちの国で消費する食べものは、できるだけこの国で生産する」という、JAグループが提起している考え方です。国産農畜産物をおいしいレシピでたくさん食べてほしいという願いから、当コンテストも開催しました。



すべての  
入賞レシピの  
詳細はこちらに  
アクセス!



# 1月下旬・2月上旬の主な行事

1月16日	火	企画会議	2月1日	木	経営会議
17日	水		2日	金	
18日	木		3日	土	閉庁日 第11回アイスクャンドルまつり
19日	金	各種実証・研究報告会、役員報酬等審議会	4日	日	
20日	土		5日	月	四ヶ町村甜菜対策協議会府県視察研修～7日
21日	日		6日	火	
22日	月		7日	水	インターンシップ
23日	火	管内JA役員研修会	8日	木	
24日	水		9日	金	
25日	木	経済常任委員会	10日	土	
26日	金	総務常任委員会	11日	日	建国記念日
27日	土		12日	月	振替休日
28日	日		13日	火	
29日	月	理事会	14日	水	企画会議
30日	火		15日	木	臨時理事会
31日	水	決算棚卸監査			



**おすすめ  
書籍のご紹介**



実践事例でわかる  
獣害対策の新提案  
地域の力で農作物  
を守る



まんがでわかる  
賀川豊彦と考える  
ボランティア



ぜ～んぶひとりでできちゃう！  
小学生のお菓子ブック

## 年末年始の業務体制 (令和5年～令和6年)

	12/29(金)	12/30(土)	12/31(日)	1/1(月)	1/2(火)	1/3(水)	1/4(木)	1/5(金)	1/6(土)	1/7(日)	1/8(月)	1/9(火)
事務所	平常	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	平常
活汲事業所	平常	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	平常
金融店舗	平常	休業	休業	休業	休業	休業	平常	平常	休業	休業	休業	平常
堆肥製造施設	平常	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	平常
給油所	平常	平常	平常注)③	休業	休業	平常注)③	平常	平常	平常	平常	平常	平常
(有)だいち (TMRセンター)	平常	平常	休業	休業	休業	休業	平常	平常	平常	平常	平常	平常

### 備考

- ①仕事納めは12月29日とします。(事務所・金融店舗・活汲事業所)
- ②仕事始めは1月9日とします。(事務所・活汲事業所) ※金融店舗については1月4日からとなります。
- ③給油所は12月31日と1月3日は午前7時30分～午後5時までの営業とし、元日・1月2日は休業とします。4日から平常営業です。